

JR連合青年女性委員会 「第27回定期総会」

9月8日(土)、博多市内において、JR連合青年女性委員会「第27回定期総会」が開催され、全国より総勢120名が参加し、貨物鉄産労からは、鈴木本部青年部長・永井東海地区本部執行委員・南関東ロジ労組より、高橋青女委員長・諏訪常任委員が参加しました。冒頭、鉄道事故・災害等によりお亡くなりになられた方々へ、哀悼の意を表すとともに、さらなる安全の確立を誓い、全員で黙とうをしました。新倉議長挨拶では、自然災害により多くの被害が出ている事に対し心よりお見舞いを申し上げる。被害に遭われた方のためにも、ボランティアやカンパへのご理解ご協力をお願いしたいと述べられました。JR連合松岡会長の挨拶では、大阪北部地震・西日本豪雨被害・北海道胆振東部地震で被害に遭われた方々には心よりお見舞い申し上げます。今回の自然災害等によりJR各社は鉄道事業だけでなく多くの関連事業にも陰りが出ている。JR総連は今回のJR東労組の脱退により混乱が生じており、民主化闘争完遂への機運はこれまでになく高まっており、若い力を結集し取り組んで頂きたいと述べられました。



今総会では、2017年度の活動を振り返るとともに、「仲間間の環を広げ、共に未来をきり拓こう！」をスローガンに、「Action concept 2nd」に基づき、「安全の確立」「民主化闘争」を最重要課題として、向こう1年の活動方針が提起され、総会委員の質疑応答では、「安全」「整備新幹線」「ユースラリー」「民主化闘争」「地協・県協活動」「働き方改革」等について、多くの発言がありました。執行部による総会答弁があり、2018年度の活動方針が、満場一致で採択されました。今総会をもって、松本・西川・松下幹事が退任され、新倉議長を中心とした新幹事会体制を確立しました。総会アピールが提起され、新倉議長による団結ガンバローにて「第27回定期総会」は成功裡に終えました。この後、同開場にて交流会が開催され、単組の枠を超え、全国の多くの仲間とさらなる親睦を深めました。

民主化闘争総決起集会



JR連合北海道地方協議会は、8月26日(日)札幌市内において「8・26民主化闘争総決起集会」を開催しました。集会は地方協議会菊池副議長(貨物鉄産労)の開会が始まり、主催者を代表して地方協議会昆議長(JR北労組)は、「本日の集会の意義は言うまでもなく、JR東日本で第一党であるJR東労組が崩壊の道を突き進んでいる。この絶好機を逃すことなく、民主化当該単組である貨物鉄産労、JR北労組が主体的に運動を進めていく決起の場としていく。JR連合総かかりの民主化闘争を私たち自らが真剣に運動を実践することで間違いなく成果が勝ち取れる。組織拡大に特効薬は無いが、行動と運動が無ければ拡大ができないことも明らかである。民主化闘争の意義を再認識し、加入した若い組合員を路頭に迷わせることなく、JR連合北海道地協に結集する全組合員の総行動を強く訴える」と挨拶がありました。



菊池委員長

続いて、JR連合・松岡会長よりJR東日本と全国的な情勢の報告がされ、引き続き「これから本格的な民主化闘争のはじまり！」と題して、「週刊東洋経済」に記事を連載されました。西岡研介氏から講演を頂き、3.2万人の脱退者を出したJR東労組とJR北海道問題、北鉄労・日貨労の動向など、JR労働界で地殻変動が起きている今の状況を的確かつ鋭い目線で話されました。

その後、貨物鉄産労・JR北労組より決意表明があり、貨物鉄産労から吉永地区本部書記長が「貨物鉄産労の取り組みを目に見える形で実践し、他労組組合員への働きかけや声かけにつなげていく。組織の減少は確実に進み、今後の舵取りを誰が担っていくのか大きな課題となっているが、勇気をもって加入してくれた仲間のために、全組合員が総力を挙げて、結果を恐れず継続的に運動を進めていく。大変微力ではありますが、しっかりと組織の強化・拡大、民主化闘争に取組むことを申し上げて決意の一端とします」と決意表明を力強くおこない、その後、全

入院、地震、火災、交通事故… 一度も経験しない人はいない。

自分の身に起こってからでは遅いのが災害です。
何事も備えあれば憂いなし。
あなたや家族の幸せを自然災害や人災から守るために、
しっかり組み合わせることで幅広く保障します。



家族の幸せを災害から守る

火災共済/地震風水害共済/交通災害共済/生命共済/入院共済

契約引受団体：明治安田生命保険相互会社

みんなで暮らしをガード
交運共済
全国交通運輸業労働者共済生活協同組合

体で集会アピールを採択し、最後に昆議員の団結ガンバローで総決起集会を終了しました。



西岡研介氏

第33回 北海道地区本部定期大会

8月25日(土)札幌市において『第33回北海道地区本部定期大会』を開催しました。大会は冒頭、8月19日に他界されました前地区本部副委員長、平沢克二様を忍び、大会参加者全員で黙祷を捧げ、ご冥福をお祈りしました。宝田執行委員の開会挨拶で始まり資格審査・大会成立を確認し、大会議長には、札幌貨物ターミナル駅分会の石田代議員を選出し議事が進められました。

地区本部を代表して菊地委員長は①貨物会社の経営状況②安全の確立③組織強化・拡大の3項目について「29年度決算は、経常利益104億円単体決算90億円、鉄道事業黒字6億・これは2年連続の黒字、数字を見れば優良。しかし私たちの生活は何もかわっていない。会社の根本や体質を変えなければならぬ。また、会社は新人事賃金制度を来年

4月1日導入と言っているが、内容確認し組合員が不利益を被らないようにしていかねばならない。安全の確立は最重要課題だが、昨年、ともに働く仲間が亡くなるという痛ましい死亡事故がおきた。また今年度、北海道では労働災害が激増している。労災は絶対起こさないと意識で自分を守る、仲間を守る、そして家族を守るためにも、職場でチェック体制・チェック機能を強化し、安全の確立を図らなければならない。組織拡大については、良識ある他労組合員を私たち貨物鉄産労に結集させ、民主化闘争完遂に向け全組合員が邁進していかなければならない。簡単ではないが地区本部を先頭に全組合員が組織拡大を意識して行動しよう」と挨拶がありました。

続いて来賓挨拶では、JR連合北海道地方協議会会長(JR北労組委員長)、菅原北海道議、藤原札幌市議長、交運共済田原事業本部長、より激励の挨拶がありました。その後、中央本部吉永執行委員から、貨物会社の経営動向・新人事賃金制度・交通政策課題などについて報告があり、最後に組織は小さいが自信を持って組織拡大行動を展開してほしいと挨拶がありました。引き続き中井執行委員より祝電・メッセージ披露のあと、浦島副委員長より2017年度経過報告、協約・協定締結承認、吉永書記長より2018年度運動方針(案)、浦島副委員長より2017年度決算報告、2018年度予算(案)が提案され、質疑に入りました。おもな意見として「安全第一と言うが、本日も関連も要員が不足している。要員の確保を」「職場要求をしっかり交渉して解決を」「選挙の取組みについて」

本部より答弁がされ、吉永書記長が集約答弁をおこない2018年度運動方針は満場一致で承認されました。その後、中井執行委員が大会宣言(案)を提起し、満場一致の拍手をもって採択され、最後に、菊地委員長による団結ガンバローで定期大会を終了しました。

第33回北海道地区本部定期大会終了後、貨物鉄産労北海道地区本部「第9回退職者連絡会総会」を開催しました。会長の矢野さんから昨年度の総会以降の総括と今後の活動計画が述べられ、その後、交運共済田原事業本部長より挨拶があり、新たに加入された仲間を紹介して総会は終了しました。なお、定期大会終了後の交流会では場所を移して退職者連絡会総会に参加された諸先輩を交えて交流を深めました。大会に結集されました組合員の皆さん、大変ご苦勞様でした。今後、各職場において今大会で提起された方針に基づき共に頑張ります。



第33回 東北地区本部定期大会

8月27日(月)、秋田市内において第33回定期大会を開催しました。開会挨拶後、議長に佐藤執行委員を選出し、執行部を代表して挨拶に立った小笠原執行委員長は、兼本部副委員長からは、貨物会社の現状、新施策について、JR東北の現状、新施策を報告し、東北の地においてJR連合を維持していくためにも組織拡大を図っていくべき、そのためにも先頭に立って闘っていくと力強く挨拶されました。来賓挨拶では、全交運共済高橋支所長より、大阪北部地震・西日本豪雨等の共済金給付状況や新制度移行についての説明、挨拶を頂戴しました。続いて足利書記長より、これまでの活動報告、2018年度の運動方針(案)提起、2017年度決算報告、2018年度予算(案)の提起をし、質疑応答では、仙台地区の現状報告、仙台台の移転問題、北海道新幹線札幌延伸時の青函トンネル共用走行問題等の質問・意見が出され、執行部からの集約答弁後、運動方針、予算を採択し、大会宣言を讀



みあげ採択した後、小笠原委員長の「団結ガンバロー」で大会を終えました。その後、平野康夫、野村得典、秋本鉦各氏の退職者激励会を開催し、終了後は場所を移し懇親会を開催し交流を深めました。

静岡支部西部分会レク



9月6日(木)、静岡支部西部分会は、浜松市内において「ビアガーデン懇親会」を開催し、短い時間でしたが交流を深めました。

お願い。

・JR連合賃金実態調査、ご協力をよろしくお願いいたします。対象9月分給与。

・大阪北部地震・西日本豪雨被害カンパ、皆様のご協力で心より感謝申し上げます。ありがとうございました。